

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
AM32Z011		導入 (自己理解のための心理臨床学入門) (Introduction (Clinical Psychology for Self-understanding))					導入教育科目 福祉・地域		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	1	1	医学部医学科	前期	火5	日本語			単独						
担当 教員	氏名 関根 剛														
	E-mail sekine@oita-nhs.ac.jp 内線														
授業 の 概 要	本講義では、「身体」とは異なる「認知」や「心理」という心の働きについて、グループワークや演習を通じた自己体験から理解を深めることを目的とする。患者の身体を把握するためには、血圧計やMRIなどの装置があるが、患者の心を理解するための装置は存在しない。そこで重要となるのが、医療者自身の「自己」というツールである。このツールが高度であればあるほど、患者の心の理解もより深いものとなる。自分自身を優れたツールとして磨き上げるためには、まず「自己」の特性を知り、感受性や共感性などを高める必要がある。本講義では、自分自身について考えたり体験したりすることを通じ、対人援助の基盤となる自己理解を深めることを目的とする。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	人の認識や行動を作り出す基本的知識を学習し、受講前よりも自己理解を深めたことを述べるができる。														
目標2	他者との円滑なコミュニケーションスキルを理解し、ロールプレイで実演することができる。														
目標3	構成的エンカウンターグループを通じて、他者との交流を行い、自己の傾向に気づいたことを述べるができる。														
目標4	自分の考え方は異なる他者の考え方を尊重できるよう、自分の考え方と異なる考え方を多面的に受け入れ関わることができる。														
目標5	自己理解の方法や視点を学習し、自分自身の性格や行動に気づくための行動ができる。														
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							2	4	2		2				
授業の内容															
1	他人という異文化：異文化は身近なものであり、他者を理解するためには、自分自身を理解することが重要だということを理解する。														
2	グループワーク1：構成的エンカウンターグループにより、他者との関係を持つ、人との関わりを通じて自己に気づく演習を行う。														
3	グループワーク2：構成的エンカウンターグループにより、自分自身の考え方、自分の特徴など、自己理解を深める演習を行う。														
4	知覚1：自分が見ているものは本当か？見るという単純な行動の中に、自分のものごとの捉え方が影響することについて体験を通じて理解する。														
5	知覚2：人は自分の経験からしか物が理解できない。自分自身の経験が物事の理解に影響を及ぼしていることについて体験を通じて理解する。														
6	性格1：個々人の特徴である性格がどのように形成され、どう分類されるのかを知る。														
7	性格2：様々な心理検査と仕組み(質問紙法)：質問紙法による心理検査を実際に行い、質問紙法の特徴を知るとともに自己の傾向を知る。														
8	性格3：様々な心理検査と仕組み(投影法)：投影法による心理検査について知り、投影法の特徴を知るとともに自己の傾向を知る。														
9	コミュニケーションスキル1：基本的なコミュニケーションスキルのロールプレイを通じて、自己のコミュニケーションの癖に気づく。														
10	コミュニケーションスキル2：「共感」は聴く人の価値観の影響を受けやすく、自己のバイアスを通じて共感することを理解する。														
11	コミュニケーションスキル3：自他を尊重しながら上手な自己主張をする方法としてアサーションの考えを知り使えるようになる。														
12	プレゼンテーション1：人に説明する技術。人に話す際の自分の癖を知り、納得や行動の促進につなげる方法を理解し使ってみる。														
13	プレゼンテーション2：人に説明する企画。いつ何を誰にどのように伝えるか、企画立案を通じて自分の考え方の癖を知る。														
14	性格4：リーダーシップについての理論について知り、心理テストで自己のリーダーシップの特徴を知る。														
15	性格5：人間同士の相性と関連するユングのタイプ理論について知り、心理テストで自己の傾向を知る。														
ラ イ ク ニ テ ィ グ ラ フ	A:知識の定着・確認	・知識確認テスト、前回の講義に対する質問への回答を行う				工 夫 の 他 の	・構成的エンカウンターグループを行う ・心理テストを実施して自分の結果を知る								
	B:意見の表現・交換	・講師からの発問、グループ討議を行う。													
	C:応用志向	・学んだスキルを用いてロールプレイを行う。													
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	事前に知らせる講義と関連する資料や動画等について精読・視聴する(14h)。													
	事後学修	講義後小テスト(8h)。呈示した参考資料や動画を視聴する(15h)。エンカウンターレポート2回(6h)。自己のコミュニケーション特徴レポート(10h)。 質問への回答・小テストや配布資料を用いて復習する(15h)。													
	想定時間合計	68													
教科書	指定しない。講義内でハンドアウトを配付する。														
参考書	様々な分野と関わるので、テーマごとに講義内で紹介する。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
		「知識確認テスト」及び「思考を深めるための小レポート」	55%										
		構成的エンカウンターグループから得た自己理解についてのレポート	10%										
		ロールプレイおよび日常生活におけるコミュニケーションについてのレポート	10%										
		最終レポート	25%										
注意事項	多くの演習やグループワークを取り入れるので、積極的に講義や討議へ参加すること。												
備考													
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の 有無													
教員の 実務 経験	臨床心理士、少年鑑別所勤務、電話相談スーパーバイザー												
実務経験を いかした教 育内容	構成的エンカウンターグループ、コミュニケーションスキル、心理検査等に関する演習を行う。												